

ミニトーク「1935/昭和 10 年前後の藤田——壁画と本のしごとの振れ幅」

1933 年(47 歳) 11 月 中南米から帰国、都内に定住

1934 年(48 歳) 2 月 東京銀座の日動画廊で個展。35, 36, 37, 38 年も。

3 月 二科会会員に。

5 月 大札記念京都美術館美術展に《メキシコ》を出品。

夏 義兄宅敷地内にメキシコ風アトリエを建てる。

9 月 第 21 回二科展に 27 点を特別展示。

9-10 月 銀座聖書館内のブラジル珈琲宣伝所に壁画を制作。

11 月 中国旅行。

挿絵等:雑誌『あみ・ど・ぱり』、『婦人画報』ほか

1935 年(49 歳) 4-5 月 満州に講演旅行。

夏、国内旅行(軽井沢、佐渡、秋田、青森など)。

9 月 第 22 回二科展 《北京の力士》ほか。

10 月 大阪そごう百貨店特別食堂に壁画。

11 月 銀座コロンの天井画 ⇒ 1974 年に迎賓館へ寄贈。

挿絵等:雑誌『婦人之友』、『ホーム・ライフ』ほか

1936 年(50 歳) 3 月 映画「風俗日本」の撮影を秋田で行う。

*226 事件 5 月 関西日仏学館のサロンの絵画《ノルマンディーの春》を制作。

6 月 マドレーヌ急逝

夏頃、四谷左門町に転居。堀内君代との暮らしが始まる。

9 月 第 23 回二科展 《自画像》ほか。

京都の丸物百貨店壁画(《野あそび》ほか)

装幀・挿絵等:随筆集『腕一本』、柳澤健『紀行世界図絵』、雑誌『ホーム・ライフ』ほか

1937 年(51 歳) 2-3 月 秋田の素封家・平野政吉の依頼により大壁画《秋田の行事》描く。

*日中戦争勃発 7 月 麴町六番町に豪邸を建てて転居。

9 月 第 23 回二科会 《千人針》ほか。

挿絵等:横光利一『旅愁』挿絵(東京日日新聞)ほか

参考資料

林洋子『藤田嗣治 本のしごと』集英社新書 2011

『藤田嗣治画集 異郷』小学館 2014

特別展「藤田嗣治×国吉康雄 二人の平行・キャリア——百年目の再会」兵庫県立美術館、
2025 年 6 月 14 日-8 月 17 日

https://www.mbs.jp/event/page/fujita_kuniyoshi_100.shtml

藤田 嗣治 年譜

1886（明治19）	0歳	藤田嗣章と政の次男として東京に生まれる	1934（昭和9）	48歳	2月、銀座・日動画廊で個展開催。9-10月、銀座聖書館内ブラジルコーヒー陳列所の壁画を制作
1900（明治33）	14歳	パリ万国博覧会に日本の中学生代表の一人として水彩画を出品	1935（昭和10）	49歳	10月、大阪そごう百貨店特別食堂に壁画を制作、 11月、銀座コロnbンの天井画を制作
1905（明治38）	19歳	9月、東京美術学校西洋画科に入学	1936（昭和11）	50歳	5月、関西日仏学館に壁画を制作。6月、マドレーヌ急死。12月、堀内君代と結婚
1910（明治43）	24歳	3月、東京美術学校西洋画科を卒業	1937（昭和12）	51歳	2-3月、壁画《秋田の行事》を制作
1911（明治44）	25歳	東京美術学校教授・和田英作の指導のもと〈帝国劇場〉の舞台装置や背景画の制作を手伝う	1938（昭和13）	52歳	4月、沖縄へ旅行。10月、海軍省囑託として中国に派遣され漢口攻略戦に従軍、南昌飛行場の空爆を取材
1912（大正1）	26歳	鴫田登美子と結婚する	1939（昭和14）	53歳	君代夫人と渡仏
1913（大正2）	27歳	単身フランスへ渡る	1940（昭和15）	54歳	7月、日本に帰国。9月、陸軍省の依頼でノモンハン戦闘画を描くためソ連、中国国境付近へ取材旅行に行く
1914（大正3）	28歳	2月、ピカソやリベラのアトリエを訪ねる	1941（昭和16）	55歳	7月、帝国芸術院会員になる
1916（大正5）	30歳	1月ロンドンに渡る。登美子と離婚する	1942（昭和17）	56歳	3月に陸軍省、5月に海軍省より戦争記録画取材で東南アジア各地へ派遣される
1917（大正6）	31歳	1月パリに戻る。3月、フェルナンド・バレと結婚	1943（昭和18）	57歳	6月、陸軍省より戦争記録画作成のため南太平洋方面に派遣される
1918（大正7）	32歳	戦況が悪化しフェルナンド、モディアーニらと南フランスへ避難する	1944（昭和19）	58歳	3月、第2回陸軍美術展に出品
1919（大正8）	33歳	第12回サロン・ドートンヌに油彩2点、水彩4点を出品。全て入選し会員に推挙される	1946（昭和21）	60歳	4月、日本美術会が結成され、美術界の戦犯として一人で罪を引き受けるよう要請される
1921（大正10）	35歳	11月、サロン・ドートンヌで白く滑らかな下地の油彩画3点を発表し高評価を得る	1947（昭和22）	61歳	2月、藤田の戦犯容疑が正式に晴れる
1923（大正12）	37歳	11月、サロン・ドートンヌに《五人の裸婦》を出品	1950（昭和25）	64歳	パリへ向かう。3月、個展開催
1924（大正13）	38歳	フェルナンドと別居し、ユキ（リュシー・バドゥ）と16区で暮らし始める	1951（昭和26）	65歳	11月、スペイン美術協会主催の個展開催
1925（大正14）	39歳	サロン・ド・チュイルリーに《舞踏会の前》など6点出品、フランス政府からレジョン・ドヌール勲章を授与される	1955（昭和30）	69歳	2月、フランス国籍を取得。5月、日本芸術院会員を辞任
1929（昭和4）	43歳	2月、ユキと結婚。4月、ラ・ルネッサンス画廊でパリ在住の日本人画家展を開催。9月、ユキと日本に帰国。10月、東京朝日新聞社で展覧会を開催、日本橋三越等で個展を開催	1957（昭和32）	71歳	オフィシェ・ド・ラ・レジョン・ドヌール勲章を受章
1930（昭和5）	44歳	11月、ニューヨークで個展開催	1958（昭和33）	72歳	ベルギー王立アカデミーの会員となる
1931（昭和6）	45歳	3月、パリに戻る。秋にユキと別居。10月末、マドレーヌ・ルクーとブラジルへ行く。12月、リオデジャネイロで個展開催	1964（昭和39）	78歳	ポール・ペトリデス画廊で第7回個展
1932（昭和7）	46歳	3月、アルゼンチンへ、11月、メキシコへ行く。リベラ、オロスコらの壁画に感銘を受ける	1966（昭和41）	80歳	6月－8月ランスのノートル＝ダム・ド・ラ・ペ礼拝堂のフレスコ画制作。10月18日に除幕、礼拝堂はランス市に寄贈される
1933（昭和8）	47歳	メキシコからアメリカ西部を經由し、11月、マドレーヌと日本に帰国	1968（昭和43）	81歳	1月29日、チューリヒ州立病院で死去、2月3日、ランス大聖堂にて葬儀 4月、日本政府から勲一等瑞宝章を授与される